

令和5年(2023年)度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：霧島ガストロノミー推進協議会

協定締結日：平成30年(2018年)10月23日

活動状況：継続中

連携先窓口：霧島ガストロノミー推進協議会 山元紀子会長

活動資金：自治体予算

担当教員(所属)：江口文陽(森林総合科学科)、上岡美保(国際食農科学科)、

活動体制(単位)：大学

関連教員(所属)：上田智久(自然資源経営学科)、大林宏也(森林総合科学科)、

活動目的：

霧島ガストロノミー推進協議会の構成団体である霧島市などとは地方再生に関する研究連携などで本学教員が多く関わってきた。相互における講演会や特別授業および院生・学生の実習などでも構成団体の組織での研修活動などを実践してきた。また、協議会の委員を本学教員が務めるとともに、食や文化の情報発信などについて協議会役員や会員それら地域の方々の研修・見学なども定期的に「食と農」の博物館が受け入れている。さらに構成団体に所属する企業へは、本学の卒業生が就職する縁をいただいている。今後も深い連携を「食」「農」「文化」などの面で連携する。

活動内容・成果：

霧島が目指す食の方向性を明文化した「きりしま食の道10カ条」を土台とした、食の取組みを霧島市が一体となって進めた。すなわち霧島産品を活用した六次産業化、ブランド化の推進「きりしま食の道10カ条」に沿った産品、サービス、活動を「ゲンセン霧島」として認定し、霧島産農林水産物等の付加価値向上と魅力的な商品開発販売及び活動の活性化につなげた。

また、マーケットを意識したメニュー開発、提供霧島ガストロノミーを体験することができるご当地メニューを開発し、市内のホテル・旅館、飲食店等で提供、霧島産品の利用促進、消費者の満足度向上につなげた。

霧島産品の販路拡大霧島商社と連携し、国内外シェフと生産者のマッチング事業等を行い、霧島産品の魅力をPRし、利用拡大と消費拡大につなげ、作り手の収益拡大と生産意欲の向上による霧島産品の品質アップを図った。

なお、「ゲンセン霧島」の評価審査委員会には本学教員が審査委員として就任しており、東京農大ガストロノミーとの連携についても協議した。なお、「ゲンセン霧島」に認定された、生産者や事業者のもとを本学の教職員や院生・学生が研修にて訪れ、ブランディング戦略や実学での6次化について学んだ。

課題・改善点：これまでは霧島ガストロノミー推進協議会と東京農業大学との連携は、教職員の研究と研究室の教育・研究活動を中心として行われて成果を得てきたが、さらに形ある事業展開へと繋げてゆく時期となりつつある。

我が国最大の総合農学を推進する東京農業大学との連携を強化することで、霧島市に専門的知見や助言、産物の付加価値が与えられ、農林水産物・加工食品の保蔵や産業振興の取り組みが活性化されることを期待して今後も取り組みたい。(写真は霧島ガストロノミー「ゲンセン霧島」認定農家等への視察研修)

